

審判・監督会議確認事項

競技は、公益財団法人全日本空手道連盟空手競技規定（2023年4月1日初版）並びに本大会申し合わせにより行う

■審判員心得

審判員は中立公正でなければならない

審判員の試合会場での行動は、観客・選手の不信感を招くようなことがないように注意すること

■形競技について 注意事項

- ・全カテゴリー得点方式で実施する
- ・演武は一人ずつ行う
- ・同点の場合は全日本空手道連盟申し合わせにより解決する
- ・使用する形は、（公財）全日本空手道連盟空手競技規定「付録 15:全空連指定形リスト」「全空連競技形リスト」「付録 17:全空連基本形リスト」から選択しなければならない
- ・ラウンド数は参加人数により変動する可能性もある

カテゴリー	第1ラウンド	第2ラウンド	順位決定戦
幼児男女	基本形（繰返可）		
小学生男女	基本形（繰返可）		第1・2指定形
中学生男女	第1指定形	第2指定形	競技形
中学生男女団体	第1・2指定形		競技形
少年男女	第1指定形	第2指定形	競技形
成年男女	第1指定形	第2指定形	競技形
マスタース男女	第1指定形	第2指定形	競技形

【形競技注意事項】

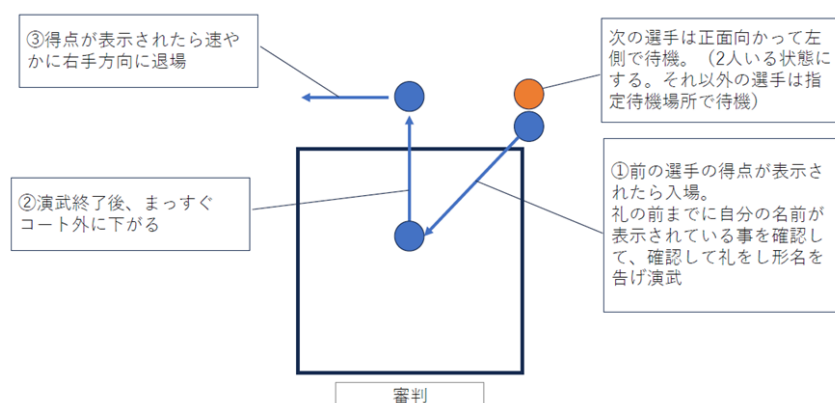
①斜め入場し演武 ※名前のコールなし ホイッスル合図なし

選手は前の選手の得点が表示されたら斜めに入場する（空いている審判員がその誘導をする）

入場している途中で名前が表示されるので、演武を始める前に、氏名（ならびに順位決定戦では形名）が違っていたら申し出ること

②下がり得点が表示されるのを待つ（下がっている間に得点が表示される）

③得点を確認したらすぐに横に下がる



【形競技審判員編成・競技等について】

- ・審判員の数5名とする
 - ※5名中3名は形資格者で構成する
- ・第1・2ラウンドでは当該郡市連の審判員は1名であれば入ることができる
- ・順位決定戦のみ正副審判長にてパネルを決定する
 - ※順位決定戦は当該郡市連の審判員は入ることができない
- ・【同点の場合の解消方法】
 - I,有効点のうち最低点の高い競技者
 - II,有効点のうち最高点の高い競技者
 - III,再試合 そのラウンドで使用した形は使用できない。再試合で使用した形はその後のラウンド及びメダルマッチで使用することは可能。前ラウンドで使用した形も再試合では使用することができる。ラウンド1と2での再試合時の使用形は指定形とする

■組手競技について

- ・トーナメント方式(4名以上の種目は3位決定戦を行う)
- ・10セコンドルール採用
- ・試合時間
 - 少年・一般 正味1分30秒 8ポイント差 (決勝戦) 正味1分30秒
 - マスターズ 正味1分30秒 6ポイント差 (決勝戦) 正味1分30秒
 - 小・中学生 正味1分30秒 6ポイント差 (決勝戦) 正味1分30秒
 - 幼児 正味1分00秒 6ポイント差 (決勝戦) 正味1分00秒
- ・安全具は下記の通りとする。なお安全具は検定品(全空連・WKF・高体連)であること

競技種目 / 安全具	メンホーVI以上	拳銃 ^① ター	ボディプロテクター	セフティーカップ	シンガード	インステップガード
マスターズ男子の部	○ 注1	○ 注2	○	○	○ 注5	○ 注5
マスターズ女子の部	○ 注1	○ 注2	○	—	○ 注5	○ 注5
成年男子の部	○ 注1	○ 注2	○	○	○ 注5	○ 注5
成年女子の部	○ 注1	○ 注2	○	—	○ 注5	○ 注5
少年男子の部	○ 注1	○ 注2	○	○	○	○
少年女子の部	○ 注1	○ 注2	○	—	○	○
中学生男子の部	○ 注1	○ 注2	○	○	○	○
中学生女子の部	○ 注1	○ 注2	○	—	○	○
小学生男子の部	○ 注1	○ 注3	○	○ 注4	○	○
小学生女子の部	○ 注1	○ 注3	○	—	○	○
幼児男女混合の部	○ 注1	○ 注3	○	○ 注4	○	○

注1:本大会では、メンホーVIおよびVIIの使用を認めるが、上位大会ではメンホーVIの使用が認められないので注意すること

注2:薄手タイプ(従来型)の赤・青の両方を用意すること

注3:リバーシブルタイプを使用すること

注4:幼児・小学1年生および2年生の着用については所属の監督の判断とする

注5:成年とマスターズのみ赤・青使用可とする

但し赤・青を使用する場合は、赤・青の両方を用意すること

【組手競技 注意事項】

- ・名前が表示されたら、主審にゼッケンを見せてコート内に入る ※名前のコールはなし
- ・試合前後はきちんと礼をし、ハグ、グータッチ、握手等はしない。また、おたけびや派手なアクションは禁止とする
- ・勝敗をコールする時、メンホーはとらなくても良い
- ・同じ競技者が連続して競技する場合は、競技時間と同じインターバルを与える
赤青帯を変える場合等、選手は速やかに行動する
- ・相手の反則（ＣＩ）により勝者となった選手は、大会ドクターの許可がない限り競技の続行不可となる
※相手のＣＩにより反則勝ちとなった選手は、コート主任が試合終了後付き添い、次の試合出場の可否についてドクターの判断を求めに行く

メディカルシートの取り扱いについて

- ・テーピングの使用については、大会ドクターの許可（メディカルシート）とコート主任・主審の許可が必要
- ・メディカルシートはドクター席にある
ドクターの許可を得たメディカルシートは速やかにコート主任に提出する

【組手競技審判員編成・競技等について】

- ・当該郡市連の試合には入らないよう注意する
※関係のある選手の場合はコート主任に確認する
※やむを得ず、対戦する選手の市連審判員がそれぞれ１名ずつパネルに入る可能性はある
- ・決勝戦については、正副審判長がパネルを決定する
- ・ヤメの前後、終了ブザーの前後などにトラブルが多いため主審・監査・コート主任は注意を払う
- ・１０カウントについて
 - Ⅰ．ヤメをかける
 - Ⅱ．ドクターを呼ぶ
 - Ⅲ．カウント開始
 - Ⅳ．反則・棄権・失格の判断（副審集合する）主審がドクターを呼ぶのは１回のみ。ドクターが来ない場合は、コート主任等がドクターを呼ぶ
- ・場外について、主審が明らかに見逃した場合監査が笛を吹き知らせる
- ・裏回しに対してのプッシングについて、裏回しの後に倒れる選手について、なぜ倒れているのかをよく見る。相手に押されていれば、スコアにしてプッシングをとる必要がある。自ら倒れている場合もあるため、その場合はスコアとはならない

・誇張と装いについて

誇張 … 実際に当たっているが過度な痛みが

わずかな過剰反応 → 注意

明らかな誇張 → 反則注意

より深刻な誇張 → 反則（直接）

装い…当たっていないのに痛がる

怪我を装った → 注意

明らかな偽装 → 反則注意

より深刻な装い → 失格（直接）

・脳震盪について（棄権とドクターストップ） ドクターが脳震盪であると判断した場合、その試合で勝利しても、次の試合には出場できない（棄権となる）

【その他全体注意事項】

○競技ルールについての問い合わせは、役員・係員に聞くことはできない

但し、各コート主任に問い合わせることは可能

○組手競技・形競技とも選手招集場所での招集の際、呼出しに応じなかった選手は棄権とみなす

○選手は、ストライプ・縁飾りのない競技規定にそった清潔な白の空手着を着用する

・空手着の上衣の腰部の紐は結ぶこと 胸部の紐はつけない

・左袖の刺繍は中学生・高校生のみ埼玉県名の表記を認める。文字は黒色とし、スクールカラーの使用は認める

・左袖に日本スポーツ少年団団員章の着用を認める

○胸マークは 15 cm×7 cm程度の大きさで下記の通り標記し、左胸に縫着する

文字の色は黒色とする。ただし、スクールカラー、クラブチーム（道場）のロゴに使われる色は可

・【幼児・小学生・成年・マスターズ】エントリーした郡市連盟名とする。文字は黒色とする

・【中学生個人】学校名またはクラブチーム（道場含む）名とする。文字は黒色とする

団体戦にエントリーする選手は、団体戦と同じクラブチーム（道場）の胸マークを使用可

・【中学生団体】学校名またはクラブチーム（道場名）とする。団体戦チームメンバーは同一標記とする

・【少年】郡市連盟でのエントリーの場合は郡市連盟名、学校からのエントリーの場合は学校名とする
文字は黒色とし、スクールカラーの使用は認める

・高体連所属校の教員等が出場する場合は「高体連」と表記する

○背中 of ゼッケンは、A5サイズとし、所属郡市連（申込団体名）、カテゴリー、氏名を記載する

高体連所属校から出場の選手は、高体連のゼッケン可

○赤帯・青帯は、全空連検定品とする

・組手競技・形競技のいずれも選手各自が帯を持参する

・帯に氏名、所属等の表示を認める

・帯留めの使用は禁止する

・形競技の帯の色は下記の通り。

第1ラウンド・第2ラウンド・・・奇数グループは全員「赤帯」、偶数グループは全員「青帯」

順位決定戦は、全員「赤帯」

○選手は、品位ある態度で競技に臨むこと

選手は、染髪および脱色、ピアス、過度の空手着の変形等、競技者としてふさわしくないと判断された場合、参加を取り消す

○プロテストは採用しない

競技判定に関するビデオ等不服申し立てについて、一切受け付けない

○監督・パーソナルコーチは、必要以上の指示をしない

○監督・パーソナルコーチは、必ず ID を着用し、品位ある態度を心がけること

○上記が守られない場合、ID を回収し以後の活動を認めない場合もある

○パーソナルコーチ AB について

・パーソナルコーチ AB ともアリーナ内に滞在できるのは、登録した選手が試合に出場するときのみ
(敗退以後はアリーナ内に滞在すること不可)

・パーソナルコーチ AB ともアリーナ内では、登録選手と同行すること

・パーソナルコーチ A は郡市連盟監督と同じ席に着席可

・パーソナルコーチ B はコート脇に用意する専用席に着席する

○パーソナルコーチの胸マークは選手と同一のものとする